

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|----|
| ① 国語 | 9人 |
| ② 算数 | 9人 |
| ③ 理科 | 9人 |

5 留意事項

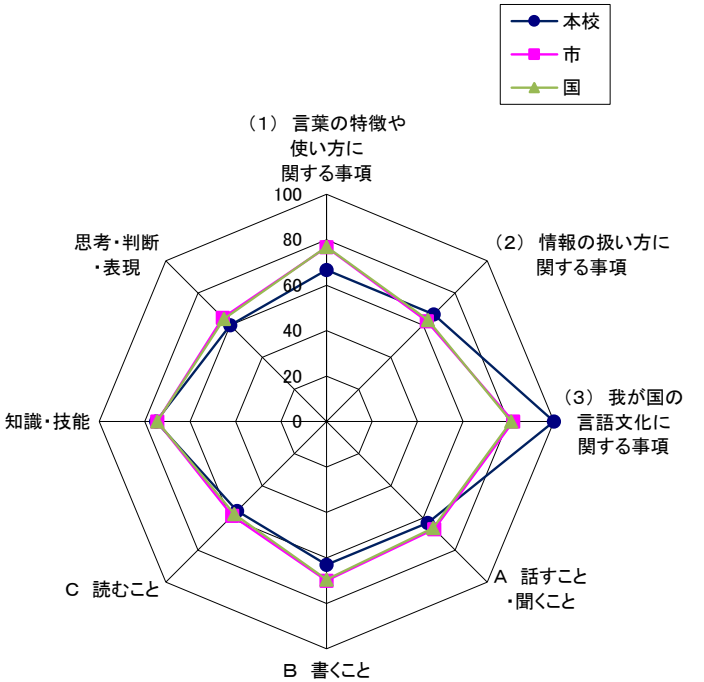
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	66.7	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	100.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	63.0	67.0	66.3
	B 書くこと	63.0	70.0	69.5
	C 読むこと	55.6	58.6	57.5
観点	知識・技能	75.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	60.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

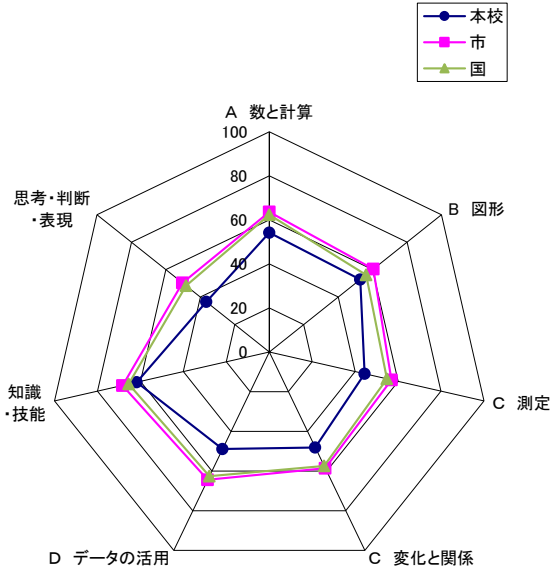
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は、国の平均と比べて10.2ポイント下回った。 ●漢字を使って書き表す問題では、16.5ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字について、当該学年での新出漢字だけでなく、すでに学習した漢字を繰り返し学習する機会を設け、文章の中でも使用できるようにする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は、国の平均と比べて3.6ポイント上回った。 ○「話し合いの記録の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する」問題では、3.6ポイント上回った。	・複数の資料を比較し情報を精査する力や、目的や相手に応じて必要となる情報を選択する力を、引き続き育成するよう指導する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、国の平均と比べて18.8ポイント上回った。 ○「資料を読んで思い出した木村さんの経験を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する」問題では、正答率が100%と高い水準であった。	・時間の経過による言葉の変化や、世代による言葉の違いに気付けるような学習を取り入れる。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は、国の平均と比べて3.3ポイント下回った。 ●「インタビューの様子の一部で小森さんが発言した理由として適切なものを選択する」問題では、18.1ポイント下回った。	・自分の考えと友達の考えを比較して聞き、自分の考えを深めていけるような学び合いの時間をつくるとともに、国語の授業以外でも話し合い活動を充実させる。
B 書くこと	●平均正答率は、国の平均と比べて6.5ポイント下回った。 ○「手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する」問題では、7.1ポイント上回った。 ●「ちらしに書かれた内容について、調べたことを基に詳しく書く」問題では、16.9ポイント下回った。	・行事作文やお礼の手紙等、書いて表現するという活動を日常的に行い、書く力を身に付けさせる。その際、目的に応じて、与えられた条件で文章を書くようにし、様々な形式の文章が書けるようにする。
C 読むこと	●平均正答率は、国の平均と比べて1.9ポイント下回った。 ●「メモの空欄に入る適切な言葉を資料の中から書き抜く」問題では、14.9ポイント下回った。	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるようにする。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	54.2	63.6	62.3
	B 図形	52.8	60.4	56.2
	C 測定	44.4	56.9	54.8
	C 変化と関係	48.1	58.6	57.5
	D データの活用	48.9	64.4	62.6
観点	知識・技能	61.7	68.3	65.5
	思考・判断・表現	36.5	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

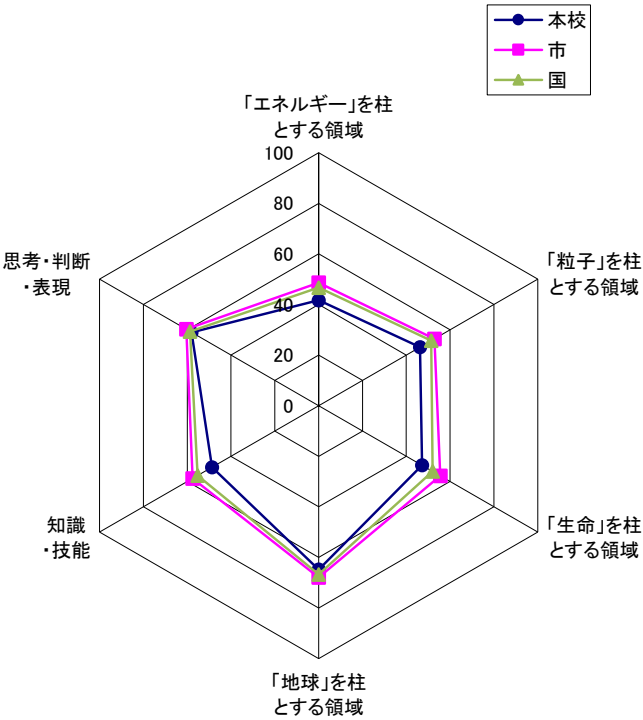
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は国の平均と比べて、8.1ポイント下回った。 ○整数の加法で考えるときの共通する単位を書く問題の正答率は77.8%で、国の正答率を3.7ポイント上回った。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題の正答率は88.9%で、国の正答率を6.1ポイント上回った。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題では、12ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・補充プリントやAIDリル等を活用し、復習を継続することで基礎的な計算の仕方の定着を図るようにする。
B 図形	平均正答率は国の平均と比べて、3.4ポイント下回った。 ○コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題の正答率は66.7%で、国の正答率を8.4ポイント上回った。 ○台形の意味や性質について答える問題の正答率は55.6%で、国の正答率を5.4ポイント上回った。 ●図形の面積の求め方を書く問題では、14.8ポイント下回った。	・定規、コンパスなどを用いて、図形を書かせたり確かめさせたりする活動を充実させ、図形の性質を理解できるようにする。
C 測定	平均正答率は国の平均と比べて、10.4ポイント下回った。 ○はかりの目盛りを読む問題の正答率は66.7%で、国の正答率を5.8ポイント上回った。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさ求め方を式や言葉を用いて記述する問題では、26.5ポイント下回った。	・学習したことを生活に結び付け、予想し測定する経験を多く取り入れることで学習内容の定着を図るようにする。
C 変化と関係	平均正答率は国の平均と比べて、9.4ポイント下回った。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題の正答率は88.9%で、国の正答率を6.1ポイント上回った。 ●10%増量の意味を解釈し、増量後の量が増量前の量の何倍になっているかを表す問題では、7.6ポイント下回った。	・表の見方、考え方の定着を図るため、授業や朝の学習の時間を活用して問題を解く時間を確保し、変化と関係に関する問題に慣れるようにする。 ・基礎基本の内容の定着を図るとともに、互いの意見についてノートに書かせたり、説明し合ったりする授業展開を行う。
D データの活用	平均正答率は国の平均と比べて、13.7ポイント下回った。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題の正答率は88.9%で、国の正答率を6.1ポイント上回った。 ●目的に応じて適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、19.9ポイント下回った。	・グラフや表を読み取る学習において、タイトルや縦・横軸に着目して、どのような内容をまとめているのか、何が分かるのかを丁寧に読み取る機会を設ける。 ・他教科においても、グラフや表を読み取ったり、作成したりする学習を積極的に取り入れる。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.7	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	46.3	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	47.2	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	64.8	67.9	66.7
観点	知識・技能	48.6	57.5	55.3
	思考・判断・表現	58.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は、国の平均と比べて5ポイント下回った。 ○「身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」問題では、11.6ポイント上回った。 ●「電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く」問題では、11.3ポイント下回った。	・電磁石について、「磁力の強さ」と「コイルの巻数」との関係性を調べる実験では、自ら感じたことや考えたことを書く時間を十分に確保し、その後、記録を基に差異点や共通点を伝え合う活動を充実させる。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は、国の平均と比べて5.1ポイント下回った。 ○「水の結露について、温度によって水の状態が変化する」という知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ」問題では、9.2ポイント上回った。 ●「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化する」という知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ」問題では、42ポイントと大きく下回った。	・今後も身の回りの現象など、児童にとって捉えやすい内容について、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、日頃から現象について触れる機会を設ける。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は、国の平均と比べて4.8ポイント下回った。 ○「ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ」問題では、15.8ポイント上回った。 ●「ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ」問題では、34.5ポイントと大きく下回った。	・顕微鏡を使った観察を繰り返し行うことで、正しい顕微鏡の使い方が身に付けられるようにする。
「地球」を柱とする領域	●平均正答率は、国の平均と比べて1.9ポイント下回った。 ○「水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ」問題では、16.9ポイント上回った。 ●「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く」問題では、1.7ポイント下回った。	・実験を行う際は、基本的な語句を適切に捉えて行えるようにし、実験の意味や目的を明確化し、丁寧に指導するよう努める。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が国の割合を6.7ポイント上回った。学級での話し合いを進んで行い、児童の意見を尊重してきた成果が見られる。今後も話し合い活動の充実を目指し、児童の意見を引き出す指導を行っていく。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が国の割合を8.7ポイント上回った。学校が行ってきた地域密着型行事や活動の結果であり、児童が地域や社会に対する愛着や関心を深くもっていることが分かる。今後も指導を継続し、地域や社会に関する興味関心を深めていく。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が100%となり、国の割合を7.8ポイント上回った。今後とも児童が自分のよさを自覚し、自信をもって活動に取り組むことができるよう、様々な活動や場において児童のよさを認め励まし、自尊感情を一層高められるようにしていきたい。また、学校行事や委員会・クラブ活動といった特別活動において、担任だけでなく、様々な教職員が声掛けを行い、児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。

●平日の学習時間についての質問では、3時間以上と回答した児童の割合が国の割合を7.9ポイント上回った。一方で、全くしないと回答した児童の割合が4.3ポイント上回ったことから、家庭学習への取り組みには、個人差が大きいことが分かる。宿題や家庭学習の取り組みについて見本を示したり、積極的な励ましをしていくことで、学習への意欲を高めていきたい。

宇都宮市立篠井小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成	○宇都宮モデル(はつきり・じゅくり・すつきり)を活用した授業改善の推進 ○ねらいの明確な提示と流れが分かりやすい授業展開 ○学習成果を次の学びへとつなげるための振り返りの工夫 ○相手意識や目的意識を明確にした、書く活動の推進 ○学びの姿を的確に捉えた、学びを深めるための発問の工夫	・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定回答率は90% ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の肯定回答率は90% ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の肯定回答率は80% ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習課題に取り組んでいますか。」の肯定回答率は90% ・「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。」の肯定回答率は90%

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎・基本の定着が不十分なところが見られた。	・個に応じた指導の工夫	・朝の学習でのTT指導や習熟度学習など、指導体制を工夫するとともに、AIDリルや復習プリントなどを活用し、個に応じた指導を推進する。
・国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項、算数では、データの活用の領域に課題が見られた。	・苦手とする領域を意識した指導の充実	・朝の学習や宿題、AIDリルを活用し、苦手とする領域の問題に繰り返し取り組む。各教科において、表やグラフなどの資料を読み取ったり、作成したりする学習を積極的に取り入れる。
・どの教科においても、自分の考えを文章で書き表すことや、自分から考えを伝えることに課題が見られた。	・自分の考えをまとめ、伝える言語活動の充実	・各教科において、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉にする機会を多く設定する。授業のまとめや振り返りでは、自分の言葉で書かせたり、理由付けをさせたり、書くことを積み重ねる。